

誰もが生き生きと働く 社会をつくるには

社会的事業所を
知っていますか

ワーカーズ・コレクティブは働くを通して、一人ひとりが自分らしく生き生きと生活していく環境を拓げることを目指しています。「地域社会にとって有益な事業、暮らしに役立つサービスやものをつくり出して事業化する」「誰もが参加できる働き方と参加の場をつくる」「雇用、非雇用の関係ではなく全員が主体的に事業に参加する」「利益を生むことを主目的とするのではなく非営利の事業」を原則に、地域の中に働く場と課題解決の事業を生み出しています。格差や貧困が加速する日本の現状で、ますますワーカーズ・コレクティブは社会的事業所として存在価値を高め、働くことのすそ野を広げる役割を果たす時代になっています。今回は社会的事業所とは何かを、首都圏の事業所もあわせて紹介します。

社会的事業所ってなんだろう

教えてくれるのは

石澤 利巳さん

NPO 法人 北海道社会的事業所支援機構 理事長
NPO 法人 札幌障害者活動支援センター「ライフ」専務理事
共同連北海道ブロック会議 代表

ちょっと苦手なことがある人も、安心して働く職場

日本の労働市場では、有効求人倍率が非常に高い、いわゆる働き手不足状況が続いているようです。一方、相対的貧困率からすると、6人に1人は年収125万円以下で暮らしているという統計結果が出ています。貧富の差が拡がっているのです。それは、「中間層」が減少し貧困層に移行=増え続けているという事なのでしょう。

障害者をはじめ生きづらさを抱える人たちの相談に関わってきた者として、最近特に思うことは、人手不足といわれる労働市場からも排除される人たちの就労支援に関することです。障害者に限らず、困難を抱える人たちの多くは、先の年収125万円以下の生活を余儀なくされているのが現実です。しかし、その人たちは労働意欲が減退しているのかといえばそうではありません。ちょっと苦手なことがある、程度のことが多いのです。それは、共に働く同僚や事業体の少しの配慮で解決することが可能なのです。社会的事業所は、こうした困難を抱える人たちと共に働く場です。共に働く場ですから、指導する・されるの関係ではなく、対等に働き、みんなで分ける協同労働の考え方を基盤とすることが重要です。

社会的事業所づくりが課題解決へ

北海道社会的事業所支援機構は、障害をはじめ様々な困難を抱える人・そうでない人の協同労働の場である社会的事業所を広めようと、一昨年に設立されました。道内の就労支援に取り組んできたNPOや労働組合関係者が集い、様々な相談や就労先の開拓等に取り組んでいます。相談者の中には、労働市場に馴染まない人たちも多くいます。一昨年施行された生活困窮者自立支援法はこうした実態を顧みず、相も変わぬ「一般就労に結びつく就労支援」の相談に收れんされているように思います。結果、相談者の問題の解決には結びつかないのです。行政は、2000万人ともいわれる就労困難者の相談件数だけをもって就労支援の指標としてはなりません。

「制度がないから出来ない」という役所、「儲からないからやらない」という企業に任せているだけでは、就労困難者の課題解決にはなりません。私たちは、社会運動としても、社会的連帯経済を考えていくうえでも、一般就労や福祉の就労の場だけではない、第三の働く場=社会的事業所づくりを推進することが問題解決の一つの途であると思っています。

ワーカーズが運営する 共に働く場

東京都

ワーカーズ・コレクティブ コンチエルティー／ノ

事業内容

- ①お掃除ばるか事業:「石けん」「重曹」「クエン酸」などの洗浄剤や、シックハウス対応型ワックスを使用して行う清掃業務
- ②てごとフルツ事業:広報紙などの印刷物組み込み作業、ちらし・情報紙の封入発送作業
- ③おでかけマーチ事業:保育園・ケアセンターの働く人募集ちらしなどのポスティング
- ④相談 Café:引きこもり・障害者の日中の居場所探し・就労に向けての相談・家探しなど



生活クラブ生協や施設、個人から依頼を受けている清掃業務

就労支援への公的な助成 無し

設立／会員数
・2009年9月
・スタッフ25人(20~70代の男性14人・女性11人)

事業内容

- ①リユース食器レンタル:イベント、会議等で使い捨ての紙容器の代わりにプラスチックの食器を貸し出し、汚れたまま返却してもらい、洗浄・消毒後、保管する
- ②居場所事業として、講演会、趣味の会などにも取り組んでいる
- ③地域との交流として風車市や歌の会を開催

就労支援への公的な助成

・佐倉市、酒々井町、四街道市、習志野市、松戸市からの地域活動支援センター補助金

設立／会員数
・2008年10月
・スタッフ10人(40~70代の女性)

千葉県

ワーカーズ・コレクティブ 風車



月に1度開催しているバザー「風車市」で、リユース食器(写真右)を洗うメンバー



事業内容

- ①高齢の方の暮らしのサポート:介護保険ではできない家事のサポート(窓ふき、家具の移動、室内の清掃、大掃除、草むしり、車いす介助で買い物など)。1時間の利用料は1200円、入年会費は各1500円、交通費実費。原則として若者とシニアが組んで伺う
- ②清掃:マンションやアパートの定期清掃
- ③事務:DM封入作業など
- ④「はっぴい＆キャリー」くらしのサポート事業:引き払い、生前整理作業、分別・解体作業

就労支援への公的な助成

公的な助成ではなく、市民の寄付などによる助成金を受け、機材や研修費、シニアソポーター募集の講座開催費用などをまかなっている

設立／会員数

・2013年2月
・30人(20~70代の男性18人・女性12人)

若者とシニアが支え合う場

ワーカーズ・コレクティブはっぴいさん 代表 中村 久子さん

神奈川県のモデル事業への参加をきっかけに、生きづらさを抱えた若者の居場所兼働き場として設立し、他のワーカーズと連携して運営しています。仕事を増やすことが切実な課題ですが、2016年4月より「はっぴい＆キャリー」くらしのサポート事業(生前整理・引き払い)が始まりました。今後はリサイクルショップを持ちたいと考えています。目指しているのは、様々な生活環境で育った若者と多世代が交流しながら、知恵・時間・労力・いくばくかのお金を持ち寄って、地域に「誰でも共に働く場づくり」を進めることです。

はっぴいさんの経験を生かしてステップアップする人(会社員3人・NPO福祉事業所常勤2人・食のワーカーズ・コレクティブ1人)、はっぴいさんの運営に関わりまとめ役を担う人もいますが、病気の再発などで参加できない人もいます。一方、高齢の方には若者のサポートが喜ばれ、若者は感謝されることで自信をつけ信頼関係を結ぶチャンスがあり、それが最大の成果です。しかしシニアの参加を増やすことと、精神的援助も含めた専門性の向上が課題で、病気や高齢で思うように動けないことや、どのようにサポートしたらよいかななど悩む場面もあります。

事業内容



「はっぴい＆キャリー」くらしのサポート事業

暑い日に行った草むしり(高齢の方の暮らしのサポート)